

〔問5〕フラッシュカードは集中力を養い、脳の反射神経を養うためにやるのであって、漢字を覚えさせるために使うのではないのでしょうか。

〔答〕何々のためにやると言っても、ひとつの目的だけをするのではなく、いろいろな目的があるわけです。大きな目的を言えば集中力や反射神経を養うということもありますが、そのほかにも、いろいろな効果があります。石井式漢字教育の目的は漢字を覚えることではない、と言っても漢字を覚えることが悪いことではなく、ある意味から言えば大きな目的であります。先生の方で漢字を覚えさせるということを大きな目的としてその意識をもつと、子供の方がかえって覚えないう結果になりやすいので、そのような目的意識をもってはいけません。フラッシュカードをやった結果子供達は漢字を覚えていくでしょうし、子供が漢字を覚えることは彼らにとって得意なことです。ですから集中力や反射神経を養うという目的もありますが、漢字を覚えるというのも大きな目的であります。教育一般に言えることだと思いますが、何かを教える場合、便宜的な理由というものがあります

が、実際にはその他にも多くの有益な効果があります。また教師としては、今まで知られていなかったような効果を発見していく目をもたなければいけないと思います。

〔問6〕形容詞を送り仮名に頼って読んでいる子どもがいます。それでも良いのですか。

〔答〕形容詞の送り仮名は殆んど「い」とか「しい」ですから普通は送り仮名では読めないはず。動詞では送り仮名が漢字によって違いますから、ある程度送り仮名で読めるかもしれません。形容詞の場合は「い」が多いのでむずかしいと思います。ただ「大きい」「小さい」などは間に「き」や「さ」があるので判りやすいですが、数としてはそれほど多くはありません。よく文章の前後関係から読んでしまう子がいます。たとえば「嵐が」と言えば「起る」と自然に読んでしまうようなことがあると思います。このようなことはとてもよいことで頭のよい訓練となります。